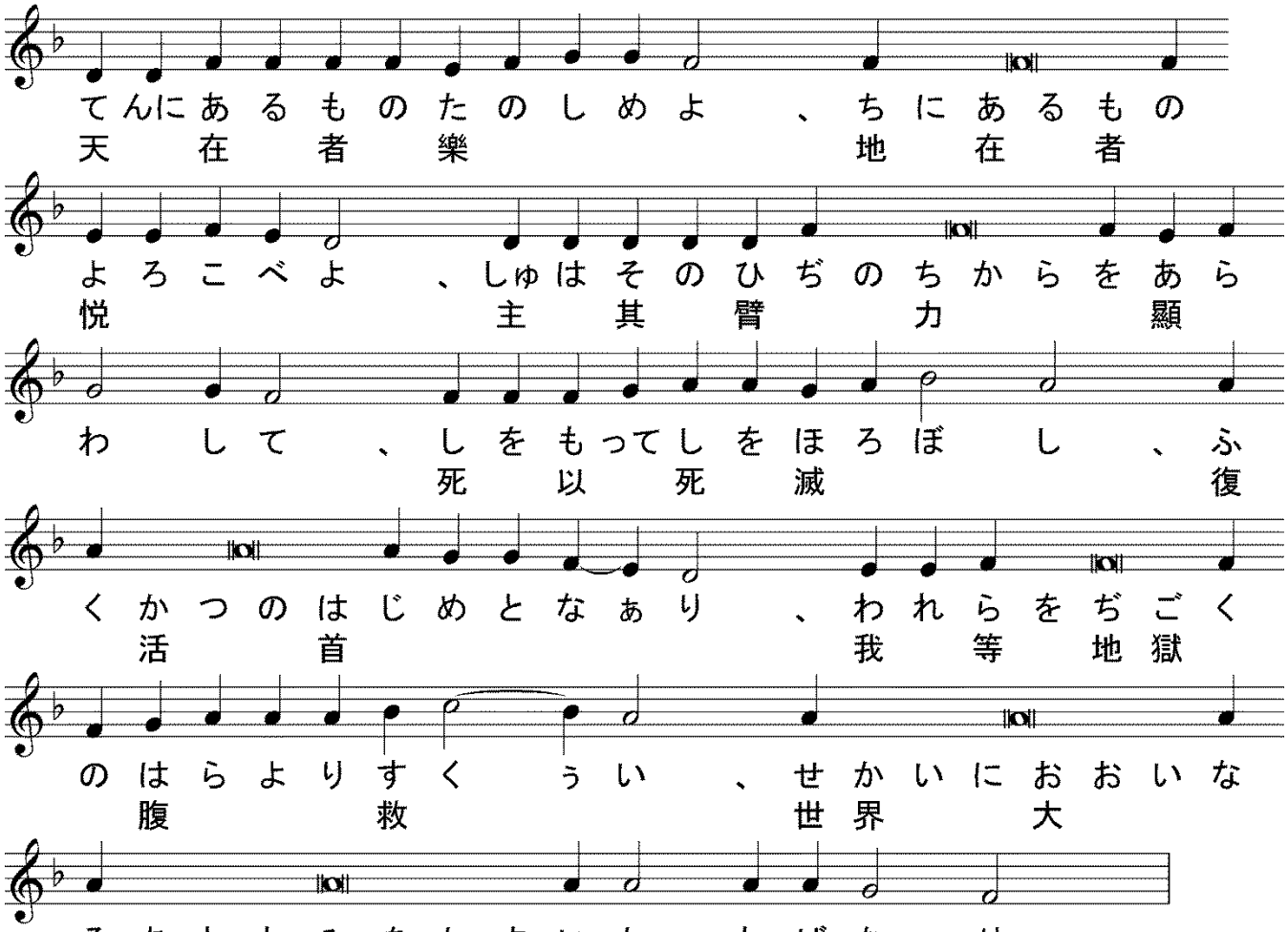
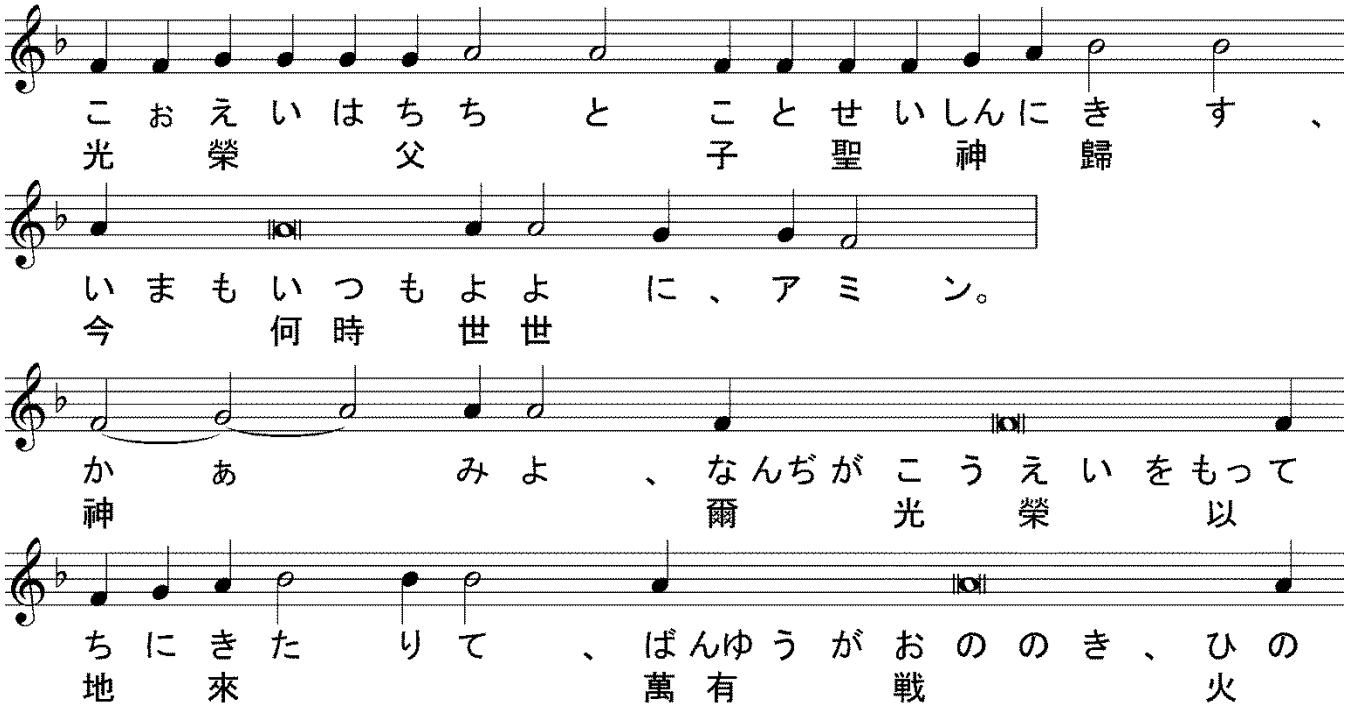
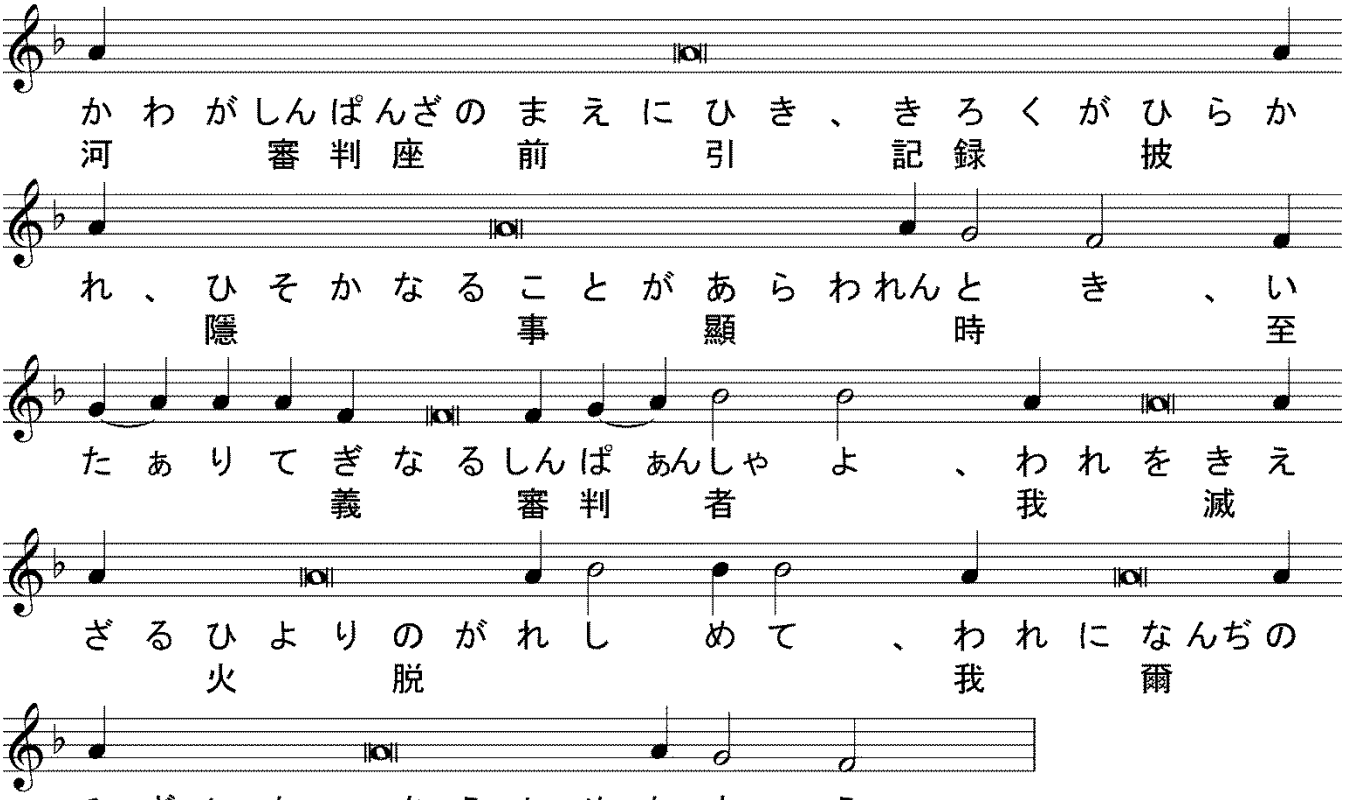
【　復活のトロパリ　第３調　】



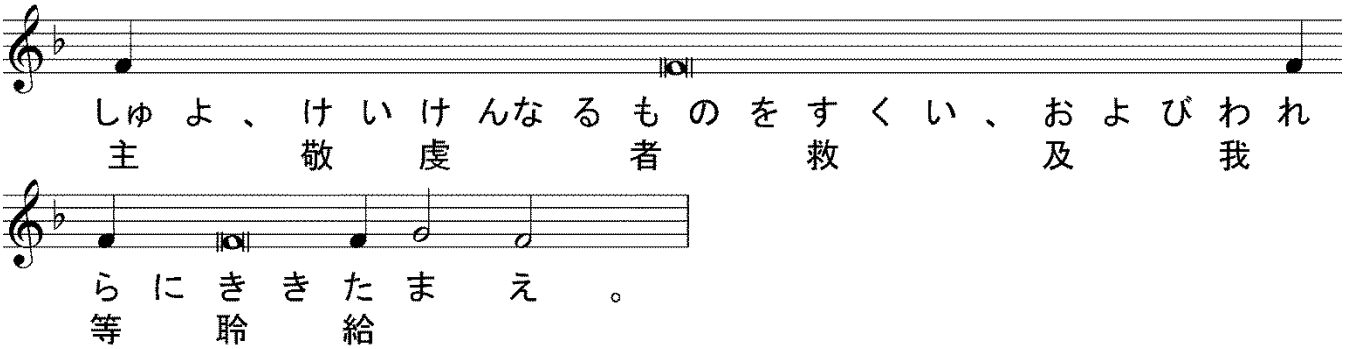
【　審判の主日のコンダク　第１調　】



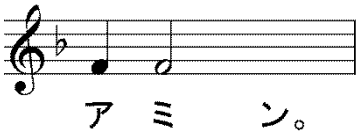


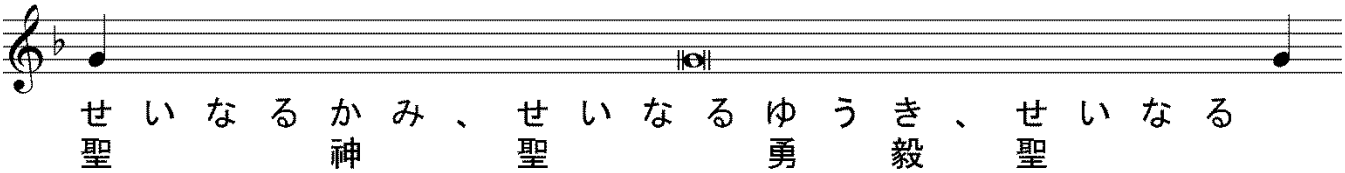
【　聖三の歌　】

代禱）主よ、敬虔なる者を救い、及び我等に聆き給え、



代禱）世世に、





じょうせいのものよ、われらをあわれめ
常生者我等憐

よ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せい
聖神聖勇毅聖

なるじょうせいのものよ、われらをあわれ
常生者我等憐

めよ。せいなるかみ、せいなるゆうき、
聖神聖勇毅

せいなるじょうせいのものよ、われらをあわ
聖常生者我等憐

れめよ。こうえいはちちとことせいしん
光榮父子聖神

にきす、いまもいつもよよに、アミン。
歸今何時世世

せいなるじょうせいのものよ、われらをあわ
聖常生者我等憐

れめよ。せいなるかみ、せいなるゆう
聖神聖勇

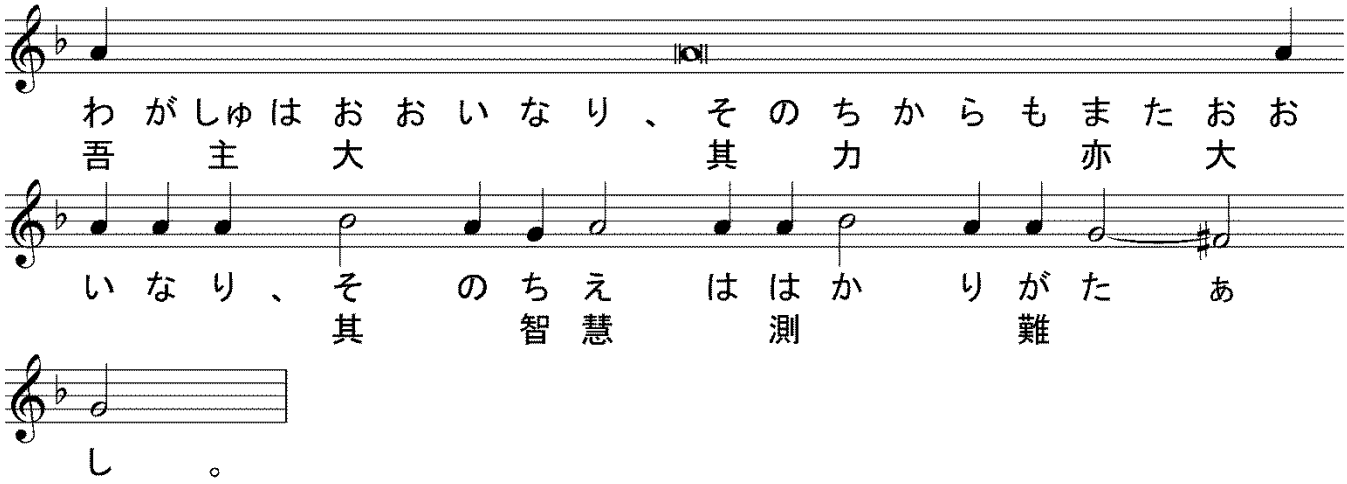
き、せいなるじょうせいのものよ、われらを
毅聖常生者我等

あわれめよ。
憐

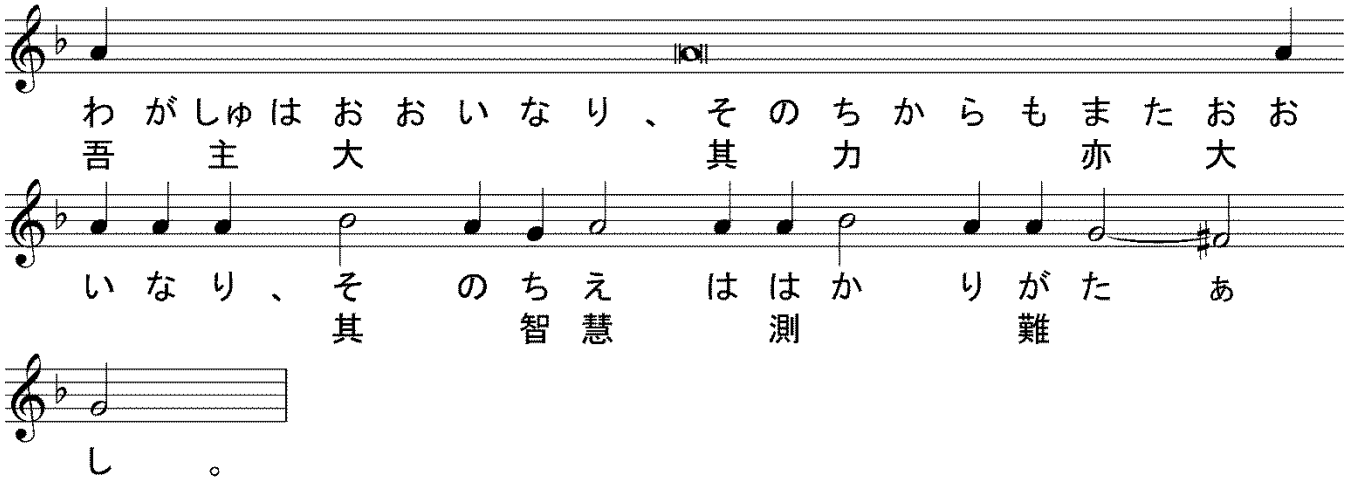
【　提綱（プロキメン）　審判の主日の　第３調　】

代禱）睿智、

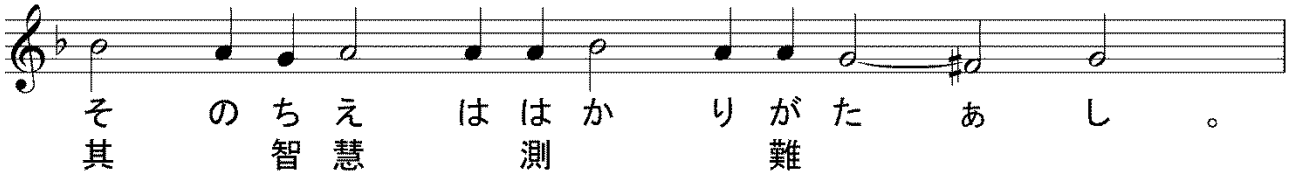
誦經）プロキメン、吾が主は大なり、其力も亦大なり、其智慧は測り難し、



誦經）主を讃め揚げよ、蓋我等の神に歌うは善なり、是れ樂しき事なり、



誦經）吾が主は大なり、其力も亦大なり、



【　使徒經（アポストロス）140端　コリンフ前書８章８節～９章２節　】

代禱）睿智、

誦經）聖使徒パヴェルがコリンフ人に達する前書の讀、

代禱）謹みて聽くべし、

誦經）兄弟よ、食物は我等を神の前に立たしめず、蓋我等は食うとも、得る所なく、食わずとも、失う所なし。然れども愼め、恐らくは此の爾等の自由は弱き者の躓と爲らん。蓋若し人、爾知識ある者が、偶像の廟に坐して食うを見ば、彼弱き者の良心は、彼にも偶像に獻げし物を食うを勸めざらんや。然らば爾の知識に因りて、弱き兄弟ハリストスの之が爲に死せし所の者は亡びん。爾等此くの如く兄弟に對して罪を獲、彼等の弱き良心を傷つけて、ハリストスに對して罪を獲るなり。故に若し食物我が兄弟を誘わば、我長く肉を食わざらん、我が兄弟を誘わざらん爲なり。我使徒たるに非ずや。我自主たるに非ずや。我イイススハリストス我等の主を見しに非ずや。爾等は主に於て我の工たるに非ずや。設い我他人の爲に使徒たらずとも、爾等の爲には是なり、蓋爾等は主に於て我の使徒職の印なり。

＊＊

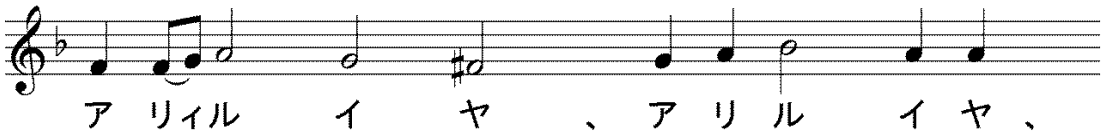
（比較用　口語訳）兄弟たちよ、食物は、わたしたちを神に導くものではない。食べなくても損はないし、食べても益にはならない。しかし、あなたがたのこの自由が、弱い者たちのつまずきにならないように、気をつけなさい。なぜなら、ある人が、知識のあるあなたが偶像の宮で食事をしているのを見た場合、その人の良心が弱いため、それに「教育されて」、偶像への供え物を食べるようにならないだろうか。するとその弱い人は、あなたの知識によって滅びることになる。この弱い兄弟のためにも、キリストは死なれたのである。このようにあなたがたが、兄弟たちに対して罪を犯し、その弱い良心を痛めるのは、キリストに対して罪を犯すことなのである。だから、もし食物がわたしの兄弟をつまずかせるなら、兄弟をつまずかせないために、わたしは永久に、断じて肉を食べることはしない。わたしは自由な者ではないか。使徒ではないか。わたしたちの主イエスを見たではないか。あなたがたは、主にあるわたしの働きの実ではないか。わたしは、ほかの人に対しては使徒でないとしても、あなたがたには使徒である。あなたがたが主にあることは、わたしの使徒職の印なのである。

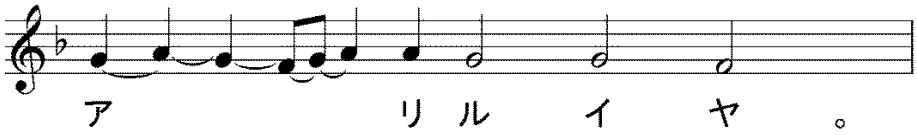
＊＊

【　アリルイヤ　審判の日の　第８調　】

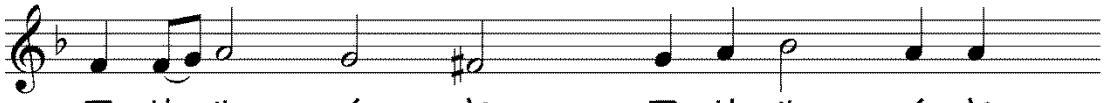
代禱）睿智、

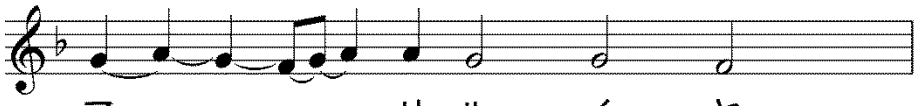
誦經）アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、



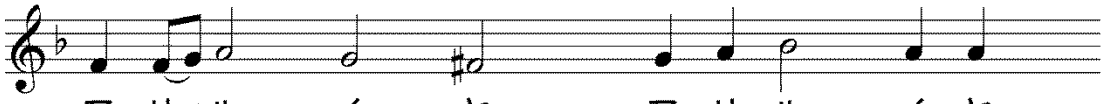


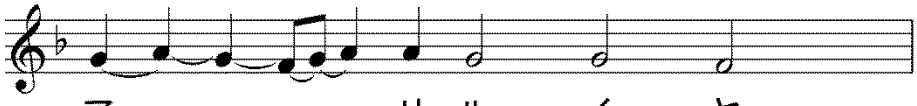
誦經）來(きた)りて主(しゅ)に歌(うた)い、神(かみ)我(わ)が救(すく)の防固(かため)に呼(よ)ばん、





誦經）讃揚(さんよう)を以(もつ)て其顔(そのかんばせ)の前(まえ)に進(すす)み、歌(うた)を以(もつ)て彼(かれ)に呼(よ)ばん、

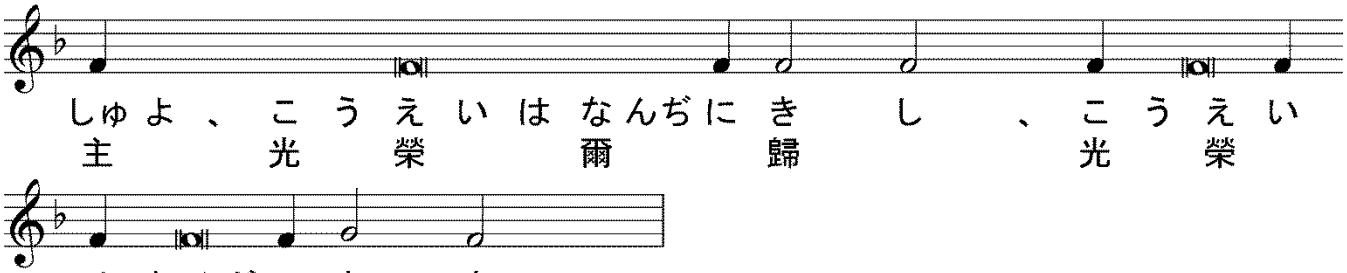


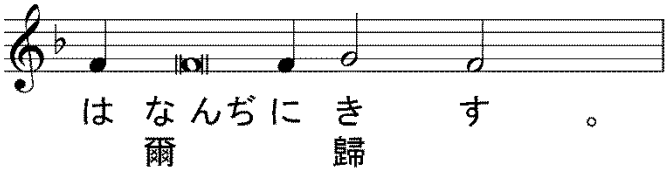


【　福音經（エヴァンゲリオン）　マトフェイ福音書106端　25章31～46節　】

代禱）睿智(えいち)、

誦經）マトフェイ傳(でん)の聖福音經(せいふくいんけい)の讀(よみ)、





代禱）謹(つつし)みて聽(き)くべし、

誦經）主(しゅ)曰(い)えり、人(ひと)の子(こ)は、其光榮(そのこうえい)を以(もつ)て、諸(もろもろ)の聖(せい)なる天使(てんし)と偕(とも)に來(きた)らん時(とき)、其光榮(そのこうえい)の寶座(ほうざ)に坐(ざ)し、萬民(ばんみん)彼(かれ)の前(まえ)に集(あつま)り、而(しこう)して彼(かれ)は、牧者(ぼくしゃ)の綿羊(ひつじ)を山羊(やぎ)より別(わか)つが如(ごと)く、彼等(かれら)を相別(あいわか)ちて、綿羊(ひつじ)を其右(そのみぎ)に、山羊(やぎ)を其左(そのひだり)に置(お)かん。其時(そのときおう)王(おう)は右(みぎ)に在(あ)る者(もの)に謂(い)わ

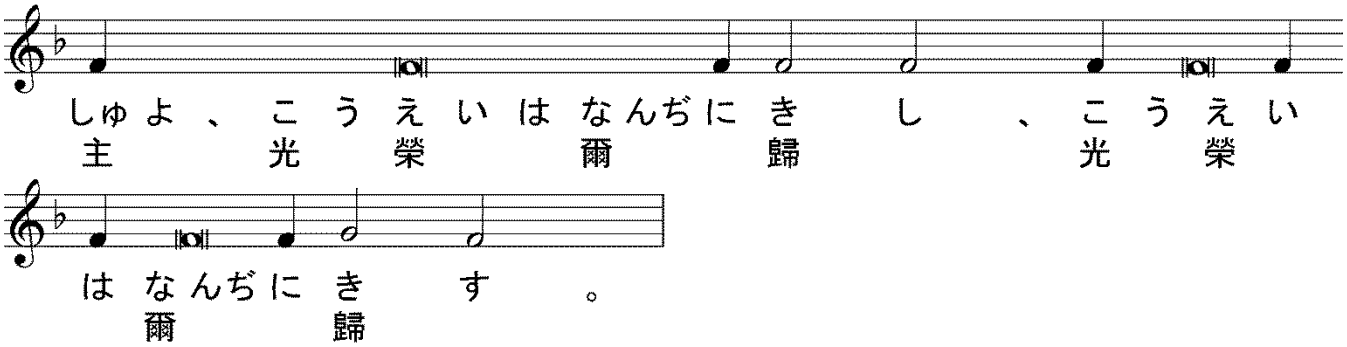
ん、我が父に祝福せられし者よ、來りて、創世以來爾等の爲に備えられたる國を嗣げ。蓋我が飢えし時、爾等我に食わせ、我が渇きし時、我に飲ませ、我が旅せし時、我を宿らせ、我が裸なりし時、我に衣せ、我が病みし時、我を顧み、我が獄に在りし時、我に來れり。時に義人等彼に答えて曰わん、主よ、我等何時爾の飢うるを見て、食わせ、或は渇くを見て、飲ませしか。何時爾の旅するを見て、宿らせ、或は裸なるを見て、衣せしか。何時爾の病み、或は獄に在るを見て、爾に來りしか。王彼等に答えて曰わん、我誠に爾等に語ぐ、爾等が之を我が此の至と小き兄弟の一人に行いしは、即我に行いしなり。其時又左に在る者に謂わん、詛われし者よ、我を離れて、惡魔及び其使等の爲に備えられたる永遠の火に往け。蓋我が飢えし時、爾等我に食わせず、我が渇きし時、我に飲ませず、我が旅せし時、我を宿らせず、我が裸なりし時、我に衣せず、我が病み、又は獄に在りし時、我を顧みざりき。時に彼等も答えて曰わん、主よ、我等何時爾の飢え、或は渇き、或は旅し、或は裸なる、或は病み、或は獄に在るを見て、爾に事えざりしか。其時彼等に答えて曰わん、我誠に爾等に語ぐ、爾等が之を此の至と小き者の一人に行わざりしは、即我に行わざりしなりと。此等の者は永遠の苦に往き、義人等は永遠の生命に往かん。

＊＊＊

（比較用　口語訳）主は言われた、人の子が栄光の中にすべての御使たちを従えて来るとき、彼はその栄光の座につくであろう。そして、すべての国民をその前に集めて、羊飼が羊とやぎとを分けるように、彼らをより分け、羊を右に、やぎを左におくであろう。そのとき、王は右にいる人々に言うであろう、『わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい。あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせ、かわいていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、裸であったときに着せ、病気のときに見舞い、獄にいたときに尋ねてくれたからである』。そのとき、正しい者たちは答えて言うであろう、『主よ、いつ、わたしたちは、あなたが空腹であるのを見て食物をめぐみ、かわいているのを見て飲ませましたか。いつあなたが旅人であるのを見て宿を貸し、裸なのを見て着せましたか。また、いつあなたが病気をし、獄にいるのを見て、あなたの所に参りましたか』。すると、王は答えて言うであろう、『あなたがたによく言っておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである』。それから、左にいる人々にも言うであろう、『のろわれた者どもよ、わたしを離れて、悪魔とその使たちとのため

に用意されている永遠の火にはいってしまえ。あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせず、かわいていたときに飲ませず、旅人であったときに宿を貸さず、裸であったときに着せず、また病気のときや、獄にいたときに、わたしを尋ねてくれなかったからである』。そのとき、彼らもまた答えて言うであろう、『主よ、いつ、あなたが空腹であり、かわいておられ、旅人であり、裸であり、病気であり、獄におられたのを見て、わたしたちはお世話をしませんでしたか』。そのとき、彼は答えて言うであろう、『あなたがたによく言っておく。これらの最も小さい者のひとりにしなかったのは、すなわち、わたしにしなかったのである』。そして彼らは永遠の刑罰を受け、正しい者は永遠の生命に入るであろう」。

＊＊



※代式祈祷③へ